

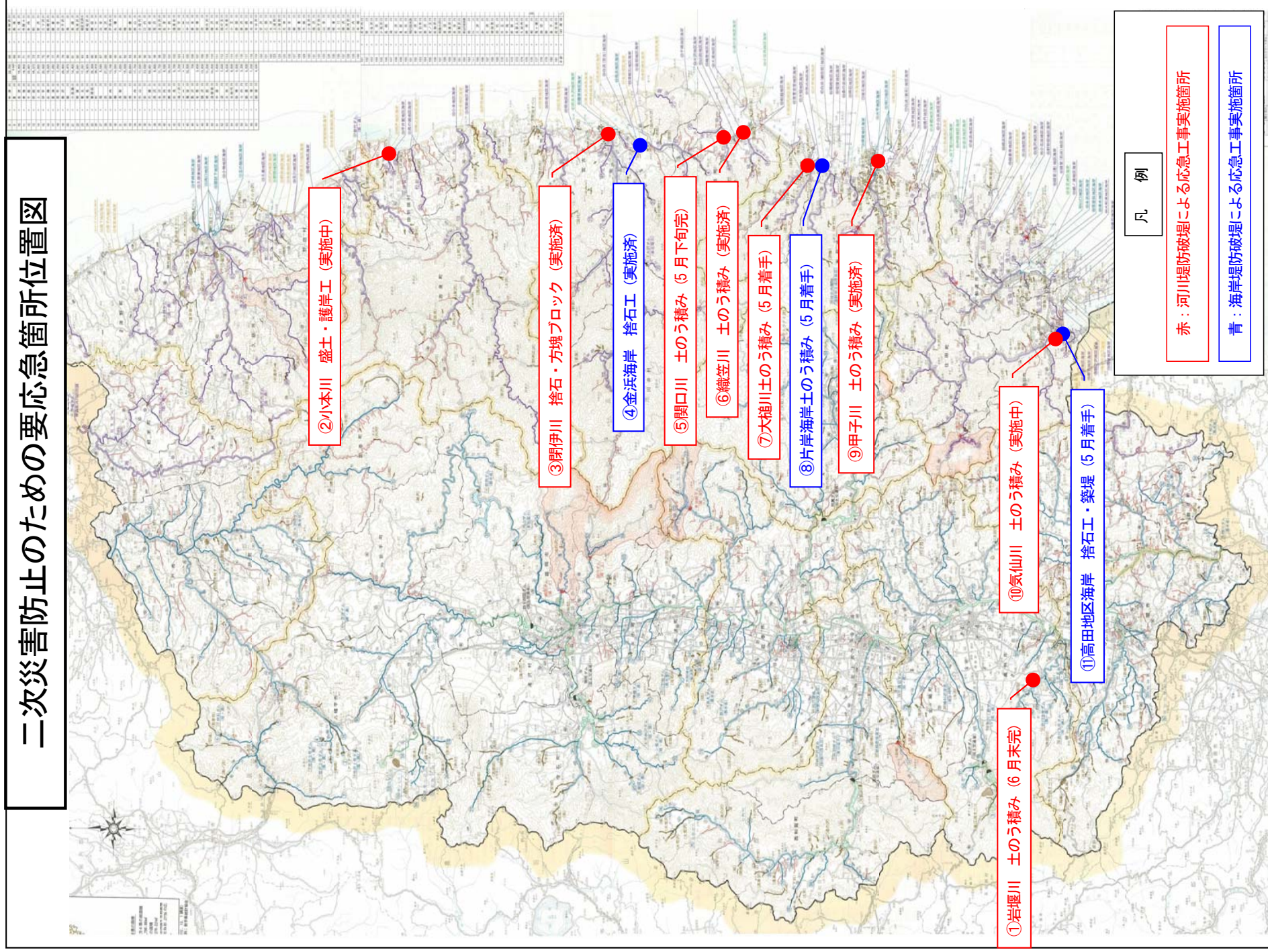
第 1 回委員会における意見とその対応について

No.	第 1 回委員会における主な意見	対 応
被害状況について		
1	・津波対策施設の効果を整理・検証することが必要。	・津波シミュレーションにより、施設の有無の比較による海岸保全施設(津波対策施設)の防護機能の検証を行う。資料 4-1 に、平成 16 年度に県で実施した津波シミュレーションの際の地形モデルに、今回の波源を与えたシミュレーション結果を整理した。
2	・被害を免れた地域、または被害が小さかった地域もある。被害の大きかった地域との状況の違いを分析し、良い例として参考にすることが重要。	・ご意見のとおり、参考にしていく。
3	・必ず住民を守る方法があると信じて取り組んでいく。	・ご意見のとおり、取り組んでいく。
今後の調査及び検証について		
4	・各海岸施設の被害原因を詳細に調査、把握することが必要。	・各海岸施設の被害状況を詳細に調査、把握する。中間報告として、主な漁港海岸の被害状況及び考察について、資料 5 に整理した。
5	・破壊された施設と、健全に残った施設それぞれの原因を詳細に調査し、分類整理することが必要。	・各海岸保全施設の構造条件の把握、津波シミュレーションによる現状再現により構造物への作用津波力の評価等により、海岸保全施設の被災メカニズムの分類整理を行う。資料 4-2 に被災メカニズムに関する中間報告を整理した。
6	・避難における課題の整理が重要なので、時期を見て定量的調査(アンケート調査など)を実施することが必要。	・時期、仕様等詳細については、ご指導を得ながら取り組んでいきたい。
7	・津波対策施設の規模を検討するため、技術的なシミュレーションを第一優先で実施することが必要。	・No. 1 に同じ。

No.	第1回委員会における主な意見	対 応
津波対策の方向性、津波対策施設の整備目標、防災型の都市・地域づくりの考え方について		
防災		
8	・津波対策施設で全ての津波を防ぐことは不可能。ハード整備とソフト施策の組み合わせによる津波対策を計画するべき。	<p>・想定を超えることが起こりえること、海岸保全施設（津波対策施設）だけで全ての津波を防ぐことは不可能であることを念頭に置き、地域特性や被害状況を勘案し、海岸保全施設（津波対策施設）、まちづくり、防災体制（ソフト施策）の組み合わせにより、津波対策を計画する。資料6に、津波対策におけるハード・ソフト対策について整理し、その組み合わせについて案の一例を示した。</p>
9	・施設計画と避難計画を一体として検討することが必要。	
10	・想定を超えることが起こりうることを念頭に、復興計画に取り組むことが必要。	
11	・津波には避難することが最も大切。津波の脅威を風化させないために 防災教育の充実 などが必要。	
12	・その上で、防災計画などを 県民に示す時 には、従来の浸水区域等の考え方に加えて 避難に要する時間 も今後の アウトカム指標 として重要。	
13	・防潮堤、防潮林、道路盛土等の組み合わせによる 多重防御システム が必要。	
まちづくり		
14	・現在も余震が続いている状況であり、 余震による二次災害も念頭において復興活動に取り組む ことが必要。	<p>・ご意見のとおり、取り組んでいく。なお、防潮堤及び河川堤防の破堤箇所については、応急復旧を実施中あるいは計画中である。</p>
15	・地域によって被災状況が異なるので、 復旧復興のスピードの違いに配慮 することが必要。 まちづくりには時間軸が大切 で、 市町村の状況に応じて県が手厚く支援 を行うべき。	<p>・ご意見のとおり、支援を行っていく。なお、県では、震災で被害を受けた行政機能の回復を目的に、陸前高田市と大槌町に計69人の県内外の自治体職員を派遣する。</p>

No.	第1回委員会における主な意見	対 応
16	<p>・ 震災の経験や教訓の場として、メモリアル公園などの象徴的施設をまちづくりの中で位置づけ、長く伝えていくことが必要。</p>	<p>・ 想定を超えることが起こりえること、海岸保全施設（津波対策施設）だけで全ての津波を防ぐことは不可能であることを念頭に置き、海岸保全施設（津波対策施設）、まちづくり、防災体制（ソフト施策）の組み合わせにより、津波対策を計画する。資料6に、津波対策におけるハード・ソフト対策について整理し、その組み合わせについて案の一例を示した。</p>
17	<p>・ ハード整備だけで自然災害を抑え込むことはできない、という前提に立ち、自然との共生など持続可能なシステムが必要。</p>	
18	<p>・ 高齢者などでも余裕を持って安全に避難できるまちづくりが必要。</p>	

二次災害防止のための要応急箇所位置図



河川海岸施設の決壊箇所等について、下記のスケジュールで応急工事を進める予定とされていますので、報告します。									
河川海岸施設の決壊箇所等について、下記のスケジュールで応急工事を進める予定とされていますので、報告します。									
振興局等	実施箇所	河川・海岸名	被災原因	応急対策工及び費用	工事着手	一次対応	二次対応	選定基準	
				1. 居住可能な集落や家屋が残っている地域 2. 地域生活の復旧・復興のために不可欠な公共施設・ライフラインが浸水エリアに存する区域 3. 高潮等により浸水が障害となり、捜索活動やガレキ処分、救援物資の受け入れ等の妨げとなる区域					
				※一次対応とは 出水期(7月上旬用途)までに高潮位までの締切を実施 ※二次対応とは 台風期(9月上旬用途)までに現地発生材等を活用し補強を実施					
県南	奥州市下谷起	岩堰川(右岸)	地震による 破堤 L=114m	土のう積み L=114m C=20,000千円	3/18		6/30完	1	
岩泉	岩泉町小本	小本川(左岸)	越波による 破堤 L=150m	盛土・護岸工 L=130m C=40,000千円	3/25		5月未完	1	
宮古	宮古市藤原2丁目	閉伊川(左岸)	越波 L=55m	捨石・方塊ブロック L=55m C=3,000千円	3/21		3/28完	1・2	
宮古	宮古市金浜	金浜海岸	L=300m	捨石工 L=300m C=5,000千円	3/21		4/3完	2	
宮古	山田町柳沢	関口川	破堤 L=125m	土のう積み L=125m C=10,000千円	4/18	5/10完	5月未完	2	
宮古	山田町織笠	織笠川	破堤 L=380m	土のう積み L=380m C=5,000千円	3/20	3/28完	5月未完	2	
沿岸	大槌町大槌	大槌川	破堤 L=100m	土のう積み L=100m C=50,000千円	5/20予定	6月末 予定	8月末 予定	3	
沿岸	釜石市片岸	片岸海岸	破堤 L=300m	土のう積み L=300m C=100,000千円	5/10予定	6月末 予定	8月末 予定	2	
沿岸	釜石市松原	甲子川(写真あり)	破堤 L=75m	土のう積み L=75m C=5,000千円	4/5	4/14完	5月未完	2	
大船渡	陸前高田市市場・木場	気仙川	破堤 L=710m	土のう積み L=710m C=50,000千円	4/11	4月未完	7月末 予定	2	
大船渡	陸前高田市高田町	高田海岸(写真あり)	破堤 L=2,000m	捨石工・築堤 L=2,660m C=550,000千円	4/20	7月上旬 予定	9月上旬 予定	2	

三級河川甲子川（岩手県釜石市松原地区）



実施前



実施後



実施前

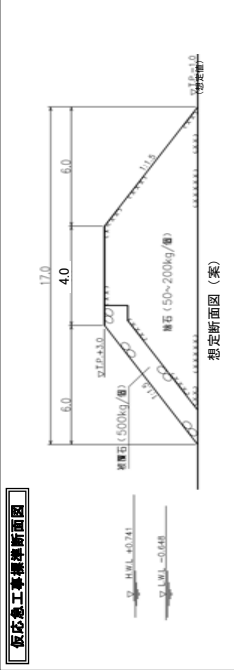
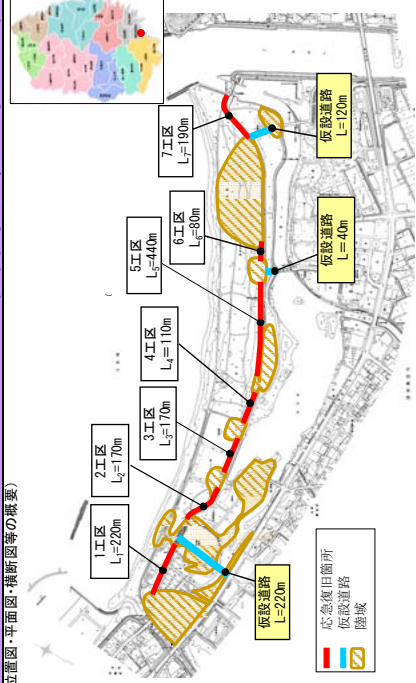


実施後



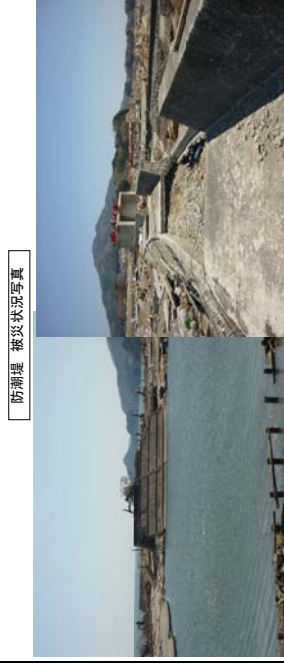
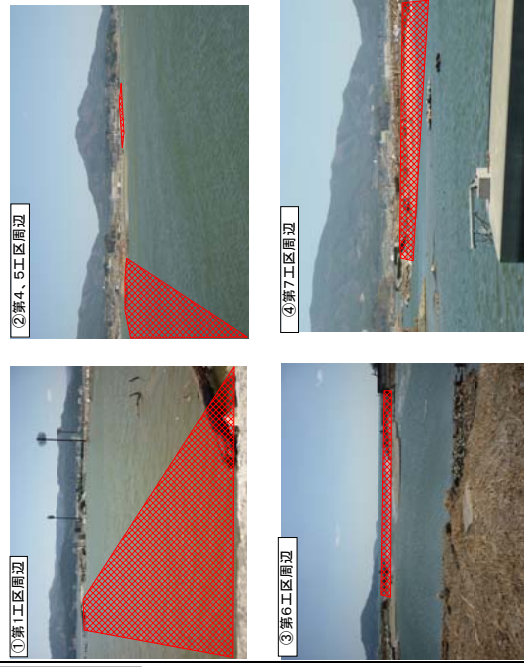
三陸南海岸 高田海岸 岩手県陸前高田市高田地区

被災後におかれ、たかた 収容された、たかた
（位置図・平面図・横断面等の概要）
（仮設工事実施箇所写真）

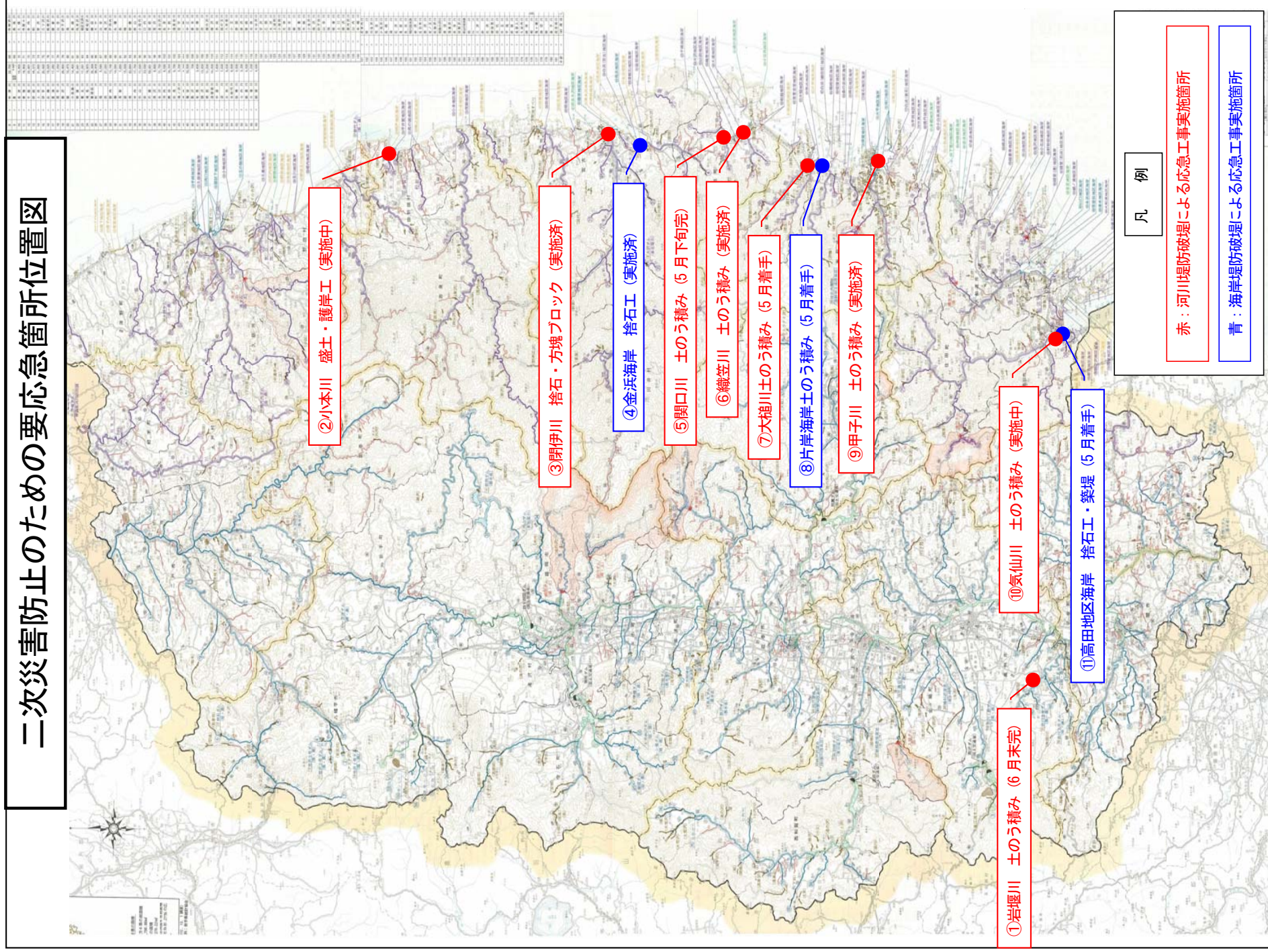


【一般概要】
- 延床面積 498ha
- 延床数(陸前高田市) 1,494人
- 1丁方小町棟数 783人
※平成23年9月2日現在

背後地の被災状況



二次災害防止のための要応急箇所位置図



河川海岸施設の決壊箇所等について、下記のスケジュールで応急工事を進める予定としておりますので、報告します。

1. 居住可能な集落や家屋が残っている地域
 2. 地域生活の復旧・復興のために不可欠な公共施設・ライフラインが浸水エリアに存する区域
 3. 高潮等により浸水が障害となり、捜索活動やガレキ処分、救援物資の受け入れ等の妨げとなる区域
- ※一次対応とは 出水期(7月上旬用途)までに高潮位までの締切を実施
 ※二次対応とは 台風期(9月上旬用途)までに現地発生材等を活用し補強を実施

振興局等	実施箇所	河川・海岸名	被災原因	応急対策工及び費用	工事着手	一次対応	二次対応	選定基準
県南	奥州市下谷起	岩堰川(右岸)	地震による 破堤 L=114m	土のう積み L=114m C=20,000千円	3/18		6/30完	1
岩泉	岩泉町小本	小本川(左岸)	越波による 破堤 L=150m	盛土・護岸工 L=130m C=40,000千円	3/25		5月未完	1
宮古	宮古市藤原2丁目	閉伊川(左岸)	越波 L=55m	捨石・方塊ブロック L=55m C=3,000千円	3/21		3/28完	1・2
宮古	宮古市金浜	金浜海岸	L=300m	捨石工 L=300m C=5,000千円	3/21		4/3完	2
宮古	山田町柳沢	関口川	破堤 L=125m	土のう積み L=125m C=10,000千円	4/18	5/10完	5月未完	2
宮古	山田町織笠	織笠川	破堤 L=380m	土のう積み L=380m C=5,000千円	3/20	3/28完	5月未完	2
沿岸	大槌町大槌	大槌川	破堤 L=100m	土のう積み L=100m C=50,000千円	5/20予定	6月末 予定	8月末 予定	3
沿岸	釜石市片岸	片岸海岸	破堤 L=300m	土のう積み L=300m C=100,000千円	5/10予定	6月末 予定	8月末 予定	2
沿岸	釜石市松原	甲子川 (写真あり)	破堤 L=75m	土のう積み L=75m C=5,000千円	4/5	4/14完	5月未完	2
大船渡	陸前高田市の 場・木場	気仙川	破堤 L=710m	土のう積み L=710m C=50,000千円	4/11	4月未完	7月末 予定	2
大船渡	陸前高田市の 高田町	高田海岸 (写真あり)	破堤 L=2,000m	捨石工・築堤 L=2,660m C=550,000千円	4/20	7月上旬 予定	9月上旬 予定	2

二級河川甲子川(岩手県釜石市松原地区)



実施前



実施後



実施前



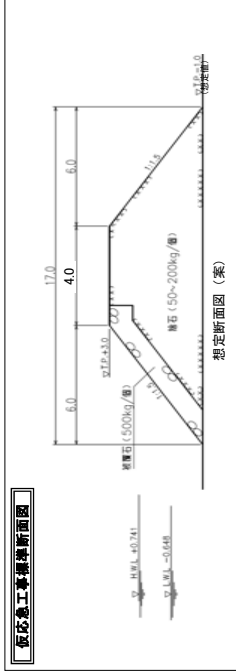
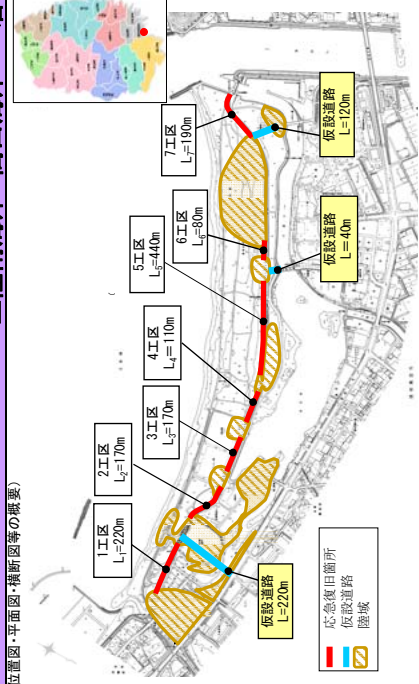
実施後

三陸南海岸 高田海岸 岩手県陸前高田市高田地区

災害発生後、仮設堤が設置されたことにより、被災した沿岸地区の復旧が進展している。

(仮設工事実施箇所写真)

(位置図・平面図・横断面等の概要)



【一般概要】

- ・治水範囲 488ha
- ・治水人口 (陸前高田市) 1,494人
- ・1方小排水数 763人
- ※平成23年9月2日現在

背後地の被災状況